



(ポーノ)
立命館大学 学生団体BohNo(草津市)

食品ロス削減弁当で「もったいないからおいしい」へ

学生団体BohNoは、若者の食への気づきを広げるために、「食育・食品ロス削減・商品開発」の三つの軸のもと、規格外野菜を使用したお弁当の商品開発、小中学生向けの食育イベントなどを行っている団体です。



今回は、3つの軸の中の「食品ロス削減」分野の活動を紹介します。令和7年度の活動は主に3点です。

1つ目は、学生向けの啓発活動です。大学での規格外野菜を使ったメニューの提供や公立小学校で食品ロスについての出張授業を行い、子どもたちが主体的に考えるきっかけを作りました。2つ目は、賞味期限の間近な食品や期限切れの食品の販売です。「賞味期限」と「消費期限」の正しい知識を広め、食品ロスを身近に感じてもらうよう努めました。3つ目は、農業高校と連携した「食品ロス削減弁当」の開

発です。本来なら廃棄の対象となる規格外野菜をお弁当という新たな価値に変容させ、地域の方々にお届けしました。



「もったいないからおいしいへ」を目標に、今年度は特に「食品ロス削減弁当」に挑戦しました。捨てられるはずだった野菜が、おいしい形で人の手に届く仕組みが形になった活動です。地域の方にも好評で、即完売といううれしい結果となり、「食べるだけでロス削減に参加できる」という仕組みが、BohNoとして食品ロス削減の小さな貢献になったと実感しています。今後も「もったいないからおいしいへ」を合言葉に、地域と連携した新しいロス削減の形に挑戦し続けたいです。



立命館大学 学生団体BohNo(ポーノ)



住所:草津市野路東1丁目1-1 HP:<https://bohnowebsite.wixsite.com/bohno-cafe>

創業:2020年8月

業種:当団体は、「食を通して、若者の視野を広げる」というコンセプトのもと、立命館大学の学生54名で活動している学生団体です。食育・食品ロス削減・商品開発の三つの軸を中心に、食の新たな視点を若者に提供しています。小中学校での出張授業を通じた食品ロス削減の啓発や、地域の野菜を活用した商品開発・レシピ開発などを行っています。これらの活動を通して、若者が日常の「食」に主体的に向き合い、自分ごととして捉えられる社会の実現を目指しています。

食品ロスは「もったいない」で終わる問題ではなく、工夫次第で「おいしい」や「たのしい」に変えられると感じています。BohNoでは、捨てられるはずだった食材を活かし、食べることで誰でもロス削減に参加できる仕組みづくりに挑戦してきました。これからも、食を通して身近な行動につながる食品ロス削減活動を広げていきたいです。



代表
山本 怜奈さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!」でフードエコ・プロジェクトに取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし・買い手よし・環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。



滋賀県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問い合わせ

滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課

TEL:077-528-3477 FAX:077-528-4845